

■（１５４）戦争が本当に終わったのはいつか、小野田さんの訃報に思う

その小柄で柔和な老人が、戦後２９年間もジャングルに潜伏していた旧日本兵だった男性には見えなかった。社内の待ち合わせ場所に案内する間、「お元気ですね。おいくつになられました」と声をかけた。「９１です」と笑顔で返してくれた。昨年９月下旬だった。

小野田寛郎さんがフィリピンのジャングルで発見された時、小学５年生。「戦後は終わった」とされ、各地でビルや団地が建つ高度成長時代だった。戦争を体験した両親の話や学校の「平和授業」を通じ、かつての戦争がいかに悲惨だったかは教わっていたものの、生まれる前の昔の話だった。その２年前にグアムの洞窟から横井庄一さんが戻ってきていた。１人だけでも驚いたのに、さらに小野田さんまで現れた。太平洋戦争が続いていると思い込んでおり、直前まで仲間の旧日本兵もいたという。日本人冒険家と接触した後も、元上官から直接、「作戦任務解除」を命令されるまでは、現地を離れようとしなかった。

小野田さんが社を訪れた際に撮った写真は、和歌山版の連載「紀のひと」の初回に載った。半生を振り返る連載は亡くなった１６日で１８回目。まだ、陸軍学校の話だった。（山）